

# TOKAI原子力サイエンスフォーラム



今、私たちにできること 福島での「あのとき」「いま」「これから」を知る

今回のフォーラムでは、“福島は今”、復興の歩みについて紹介する講演と、平成26年度から取り組んでいる社会科学分野の若手研究者への支援事業の報告を行います。

この機会にあらためて、今私たちに何ができるのかを一緒に考えてみませんか。

**【日 時】** 2月26日(日) 午後1時～4時

**【場 所】** 東海村産業・情報プラザ「iVil」(旧リコッティ)

**【内 容】** 右表参照

**【入場料】** 無料

**【問い合わせ】** まちづくり推進課原子力サイエンス・国際化担当(☎282-1711 内線1342) ※事前申し込みは不要です。

13:00	開会(12:30受け付け開始)
13:10 }	<b>東海村研究支援事業成果報告</b> ▼「支援事業の意義と選考結果について」 <b>講師</b> ▼滝田薫さん(茨城キリスト教大学教授、支援研究選考委員長)
	<b>報告</b> ▼「『SPEEDI』とは何か、それは原子力防災にどのように活かせるのか?」 <b>報告者</b> ▼寿楽浩太さん(東京電機大学助教)、菅原慎悦さん(電力中央研究所主任研究員)
<b>休 憩</b>	
14:30 }	<b>講演</b> ▼「福島浜通りの復興と地域づくり活動～東日本大震災と原発事故を乗り越えて～」 <b>講師</b> ▼西本由美子さん(NPO法人ハッピーロードネット)
15:50	<b>トークセッション・質疑応答</b>
16:00	閉会



## Road to 2019! ～国体への道～

vol.4

いきいき茨城ゆめ国体2019

### 【ホッケーってどんなスポーツ?】

ホッケーはサッカーに似たスポーツで、時間内にどれだけ得点できるかで勝敗が決まります。

#### ●フィールドとサークル

競技フィールドは、バックライン55メートル、サイドライン91.4メートルの長方形で、サッカー場よりもやや小さいサイズ。



引用元：日本ホッケー協会ホームページ

主な大会は、人工芝のフィールドで行われます。ゴールは縦2.14メートル、横3.66メートル、ハンドボールとほぼ同じような大きさです。ゴール前には「サークル」と呼ばれるシューティングゾーンがあり、サークル内からシュートしてゴールに入ったボールのみが得点となります。

#### ●選手の数

11人(うちゴールキーパー1人、フィールドプレイヤー10人)。6人制のホッケーもあります。選手の交代は試合中自由にでき、同じ選手を含め何回でも行えます。

#### ●試合時間

国際大会等では、各15分の4クォーター制(4Q制、計

60分)で実施され、1Qと3Qの後は2分、2Q終了後は10分のハーフタイムがあります。一部の国内競技会は、前・後半各35分(計70分)で行われ、5～10分のハーフタイムが入ります。同点の場合は延長戦を行い、決着がつかない場合は、サッカーのPK戦にあたるPS(ペナルティーストローク)戦が行われ、5人ずつのシューターによって争われます。

#### ●スティックとボール

ゴールキーパー以外は手を使うことができず、スティックでボールをコントロールします。スティックの長さは約1メートル、ボールはプラスチック製の野球の硬球くらいの大きさで、硬球よりも硬く作られています。



#### ●キーパー

シュート時のボールスピードは時速150～200キロメートル近くにもなるため、キーパーはヘルメットやレガード、プロテクター、肘パッドなど頑丈な防具で身体を守っています。

国体についての詳細は、ホームページへ!



【問い合わせ】生涯学習課国体推進室(☎282-1711 内線1423)